

小学校 低学年＜2－（14）＞ ※2－13と同時に指導も可能（以下の※印を参照）

学 年	2年	時 間	短学活（朝の会）等の活用 「じしんがおさまったら」2年	時 期	9月上旬 避難訓練当日	時 数	15分
目 標	地震の揺れがおさまった後、身近にいる先生や大人の指示に従って安全に行動することができるようにする。						
資 料	スライド（文部科学省・防災教育教材「災害から命を守るために」（H20.3）低学年・地震②「地しんがおさまったら」、地震①「地震が来た！」）						

※ 2－13と2－14を同時に指導する場合（避難訓練の事前指導として一連の行動指導の場合など）

※（流れ） 2-13の導入、2-13の展開（海・山を除く）、2-14の展開（海・山を除く）、2-13・2-14のまとめ

※ 2－13と2－14の海・山の近くにいる場合の部分を次回に短学活で指導することとする。

展開

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆)
導 入	1 「じしんがきた！」2年の学習を思い出す。 「地しんが来た」のスライド2～5を提示 ◇いろいろな場所で地震が起こったとき、みなさんが自分の身を守るためにとった方がいい行動を覚えていますか。 <教室、廊下、校庭、体育館、自分の家、外、海や山>	○前回の学習内容（学活「じしんが来た！」2年）を思い出させ、いろいろな場所で地震から自分の身を守った後の行動について学習することを知らせる。
展 開	2 地震から身を守った後のことを考える。 「地震がおさまったら」のスライド1～2を提示 ◇地震のゆれがおさまったら、次はどう行動すればいいでしょう。 <教室で> ・学校では先生の言われることを聞いて動く（避難）。 <自分の家で> ・割れた物等で足をけがしないようはきもの等をはき、頭を保護して外に出て近くの公園などに避難する <帰り道で> ・声を掛け合い、広い公園などに避難する。 ・困ったら近くの大人に助けを求める。 <海や山の近くで> ・海の場合、できるだけ早く高い所へ行く ・山の場合、できるだけ早く崩れやすい所から離れる。	○1年時の避難訓練（地震対応）を思い出させ、数名に発表させる。 ○避難時の約束「お・は・し・も」を確認する。 （おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない） 学校で統一する。（お・か・し・も）や（お・は・し・か）の場合もある。 ○地震はまた起きるかもしれない。大きな揺れがおさまっても危険な場所には近づかないこと。 ○海の近くは、津波の危険性、山の近くは土砂災害の危険性があることについてふれる。 ○東日本大震災の「釜石の奇跡」の話をする。 ○地震がおさまったら、まず家族同士や友達同士で無事を確認することを指導する。 ☆避難時の約束「お・は・し・も」が理解できたか。 ☆地震がおさまった後でも、危険なことや注意しなければいけないことがあることが理解できたか。
ま と め	3 地震がおさまった後の行動で大切なことを確認する。 ◇地震がおさまった後、どんなことが大切か考えてみましょう。	○余震に対する注意や危険なところには近づかないことを指導する。油断しない。 ○学校の場合は、落ち着いて避難、整列、人数確認 その他の場合は、落ち着いて避難し、家族同士や友達同士で無事を確認する。 ☆地震がおさまった後でも安全に行動する姿勢が身についたか。

関 連 す る 教 科 ・ 領 域 等	(生活) まちたんけん (5・6月) (学級活動) 「じしんがきた！」2年(9月) (学校行事) 避難訓練 (地震) (9月)
協 力 団 体	